

結

絞首台の鐘が、からころ鳴っています。
あなたが愛したひとの体が、揺れています。

「なんで」

愛した人の口元は、薄く笑んでいました。
まるで、愛しいあなたを守り切ったことを誇るかのよう。

それは、あなたが考えうる限り、一番の地獄のような景色でした。

「なんで、君が死ななきゃならない？」

新顔／ラウルは、寄ってたかって多くの人に傷つけられただけの、
普通の、ひとりの人間の女の子でした。

あなたの寂しさを癒し、あなたを愛してくれた、
たった一人あなたが愛したひとでした。

「……あはは。 君を殺すようないきものなんて。
たすけたってしょうがない、よね」

あなたは魔女です。
人を愛さず災いをもたらす、緑の瞳の黒い魔女。

あなたは、本物の魔女になりました。

+++++

END-LR-2：『ホンモノ』